令和３年度第１回熊野市総合教育会議会議録

1.　日　　時　　令和３年 11 月８日（月）　午後１時 30 分から

2.　場　　所　　文化交流センター　交流ホール

3.　出 席 者　　熊野市長　河上敢二
熊野市教育委員会
倉本教育長　大久保委員、高見委員、北野委員

4.　事務局関係
教育委員会事務局
勝田総務課長補佐、伴学校教育課長、弓場社会教育課長
森倉学校教育課長補佐、浦坪学校教育課指導主事
泉総務課庶務係長
市長公室
濵中市長公室長
総務課
吉井総務課長

5.　事　　項
（１）熊野市の子ども達に今育むべき力をどうつけていくか
（２）これからの生涯学習をどう進めていくか
（３）その他

勝田総務課長補佐　　定刻になりましたので、ただいまから令和３年度第１回熊野市総合教育会議を開催いたします。
本日の司会進行を務めさせていただきます教育委員会総務課長補佐の勝田でございます。よろしくお願いいたします。
総合教育会議開催にあたりまして、河上市長からご挨拶をお願いします。

河上市長　　まずは、委員の皆様におかれましてはお忙しいなか当会議にご出席をいただきありがとうございます。
日頃は、当市の教育行政の推進に格別のご理解、ご協力、ご尽力をいただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。
新型コロナウイルスの感染症についてでございますが、現時点では、小康状態のような状況が続いていることではございますが、第６波の感染拡大ということについては、これを念頭においたうえであ

らためて感染防止対策を徹底していく必要があるというふうに思っておりますし、教育文化はもちろんのこと、市民生活、経済、産業など各分野における必要な施策においては、ウィズコロナを前提とした取組をしていく必要があると考えております。

また、熊野市におきましては、平成28年度から実施しております「子どもは宝　未来への希望　基金」による様々な子育て支援事業につきまして、さらに今年度から５年間延長し、継続して実施をしてまいりたいと考えております。

なかでも、学校給食につきましては、学校給食費補助事業の内容を拡充し、市内の全ての小・中学生の給食費を無料としたところでございます。

本日の会議の内容でございますが、１点目として「熊野市の子どもたちに今育むべき力をどうつけていくか」を議題として、子どもたちに必要となる情報活用能力・読解力の育成について、来年度に実施を考えております新規事業等を中心に説明をさせていただきます。次に２点目でございますが、新型コロナウイルス感染症の影響により多くの事業が、延期・中止となりました生涯学習でございます。「これからの生涯学習をどう進めていくか」を議題に事業の継続に向けた今後の対応や、方向性について説明をさせていただきます。

様々な分野において検討しなければならない課題が多くございますが、来年度の事業に向けてのご提言を含めて、忌憚のないご意見をいただければ幸いでございます。よろしくお願い申し上げます。

今日はどうもありがとうございます。

勝田総務課長補佐　お手元に配布の資料の確認をさせて頂きます。４種類ございます。本日の事項書、横長の「令和３年度　第１回熊野市総合教育会議」と記載されたもの「資料１」「資料２」以上ですが、よろしいでしょうか。

それでは、２番の事項に入らせて いただきます。本日は、２つの事項を予定しております。

（１）の「熊野市の子ども達に今育むべき力をどうつけていくか」について、（２）の「これからの生涯学習をどう進めていくか」についてそれぞれ ご説明申し上げます。

伴学校教育課長　学校教育課の伴です。

「熊野市の子どもたちに今育むべき力をどうつけていくか」について提案します。

別添資料１をご覧ください。

現在、新型コロナ感染症の感染状況は全国的に落ち着いており、「アフターコロナ」の状況に近いものがあります。

また、第６波は必ず来るということもいわれており、「ウィズコロナ」の状況も念頭に入れていく必要があります。
そのような中、子どもたちに今育むべき力については、それらの状況とそして本市の子どもたちの課題を踏まえて、具体的に取り組んでいく必要があります。
令和４年度の予算編成期でもありますので、本日、ここで提案する内容をご議論いただき、来年度事業に生かしていきたいと思います。
よろしくお願いします。
まず、本市の子どもたちの課題を、全国学力学習状況調査の結果から、分析いたします。
令和３年度の結果から、中学校の数学は、全国平均とほぼ同じでした。
しかし、その他については、全国平均を下回っております。
特に、国語については、小中ともに課題がみられる状況です。
次に、ここ数年の経年結果について見ていきます。
小学校では、やはり、経年で見ても国語に課題があることがわかります。
中学校においても、数学よりも国語に課題がみられることがわかります。
小中ともに、国語について、課題があることがあきらかではありますが、国語の中でもどの点に課題があるのか、もう少し、細かいところを見ていきます。
小学校では、国語の学習指導要領の内容で示されております、「書くこと」「読むこと」そして、問題形式では「記述式」に課題がみられます。
一方、中学校でも、小学校と同様に「書くこと」「読むこと」そして「記述式」に課題がみられます。
ここから、本市の子どもたちには、特に「書くこと」に大きな課題がみられ、これを克服していくことが必要です。
では、ここで、国語の学習指導要領の内容で示されております「書くこと」について、詳しく見ていきます。
現在の学習指導要領は、小学校では昨年度令和２年度から、中学校では本年度から完全実施されております。
中でも、「書くこと」などは、ここにありますように、「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」を、身に付けるよう求められています。
そして、そのためには、目的や意図を明確にしたり、事実と感想、意見を整理しながら書いていくことがとても大切であります。

そこで、これらの経年的な課題である、国語の「書くこと」「読むこと」の領域の課題に対して、『学習指導要領で求められている力を確実につけていくこと』さらに、『目的や意図を明確にしたアウトプットの機会を意図的に作っていく必要がある』と、分析しました。
次に、全国学力学習状況調査で行われた質問紙調査結果について、いくつか特徴的なものを見ていきます。
白丸は全国平均の数字を上回っているもの、黒丸は下回っているものです。
小学校では、地域行事の参加が多く見られるとともに、ＩＣＴ機器の活用についても、全国平均を上回っています。
一方で、地域などをよくするために考えることや新しいものを作り出すこと、総合的な学習の時間などでの発表などの活動は全国平均を下回っています。
中学校でも、地域行事の参加が多く見られるとともに、小学校では低かった地域などをよくするために考えることについても、全国平均を上回っています。
一方で、小学校では高かったＩＣＴ機器の活用や、総合的な学習の時間などでの発表などの活動は全国平均を下回っています。
このことから、ＩＣＴを活用した学習状況に関わる内容では、小学校の割合は、全国平均に比べ上回っているものの、中学校では、全国平均を下回っている。
地域の行事には、小中学校ともに高い参加がみられ、中学校では地域や社会をよくしようと考えている生徒が多い。ＩＣＴをより一層活用し、地域のことを考えていく機会を意図的に作っていく必要があると分析しました。
それらを踏まえ、
学校教育課として、今後の方向を「子どもたちの明るい未来を拓く学校教育の推進」と銘打ち、
・学習指導要領で示された資質・能力を確実に身につけ、生きる力を育む教育の実施
・学ぶ意欲を高め、学習と自分の将来との関係に意義を見出す教育の創造
・ふるさと熊野に誇りを持ち、家庭・地域と連携した教育の創出
・新たなデジタル時代に相応しいＩＣＴ教育の実現
すべての取組をこのことを目標として進めていくことで整理していきたいと考えています。
その中で、既存の学力向上関連事業の研修や研究指定、ＩＣＴ教育などについて、具体的な取組を通し、課題の改善につながるよう、より

一層の充実を図っていきたいと考えています。
特に、すべての教科における「言語活動の充実」をとおして、「書く力」「読む力」を育成していきたいと考えております。
さらに、先ほど分析結果で述べさせていただいた「ＩＣＴをより一層活用し、地域のことを考えていく機会を意図的に作っていく」ことの具体的な形として、新規で「ＩＣＴを活用したグローカル教育の推進」を図っていきたいと考えています。
グローカルは造語ですが、国際的な視野と、草の根の地域の視点をもってとらえていくことで、それらの力をつける教育が「グローカル教育」です。
具体的には、市内の文化財や観光名所、産業などの紹介動画を子どもたち自身でタブレット端末等の ICT 機器を活用し作成します。
作成した動画をネット上に公開し、その URL を QR コードにし、既存の案内看板などに貼り付けさせていただきます。
この地を訪れる観光客や、文化財をめぐる人たちに、QR コードを読み込み、その場で子どもたちの作成した動画を視聴することができる形をとれればと考えています。
すでに、観光スポーツ交流課でも同様の取組をやっていただいているようですが、あちらは業者が作成したもので本格的な動画ですが、こちらは子どもたちが作成するものですので、すみわけはできるかと思います。
そして、将来的には英語版の説明動画等の作成につなぐなどのブラッシュアップを図りたいと考えています。
これらにより、アフターコロナの新しい旅行スタイル、特にこの地域には最近多くの小中学生が修学旅行で訪れてくれています。お互いの刺激にもつながると思います。
また、動画作成の際は、今年度改訂作業を行っております「子ども文化財読本」なども活用できるのではないかとも考えています。
なお、学校外での調査や動画撮影に伴い、「モバイルルーター」の契約も行いたいと考えています。このルーターについては、今後、もし臨時休校等でネット環境が必要な場合には、転用の活用をしたいと思います。これは、ある意味ウィズコロナの対応であると考えております。
目的のはっきりした取組でもありますので、子どもたちの主体性も育むことができるのではないかと考えています。
最後に 15 ページのその他の既存の事業についても、継続しつつも、より一層目的を明確に、特に、学習指導要領との関連を整理しながら進めていきたいと考えております。

以上で学校教育課からの提案を終わります。

勝田総務課長補佐　それでは、ただいまご説明させていただきました１番の「熊野市の子ども達に今育むべき力をどうつけていくか」について、ご質問、ご意見等ございませんか。

北野委員　ＩＣＴの授業ということで、小学生の児童にＹｏｕＴｕｂｅなどの動画を作っていただくということで、どんな授業でもそうなんですけど、授業についていけないとうことがないような形での取組をお願いします。非常に大切な事業で、いいことだと思いますので、できるだけ取りこぼしのないような授業の進め方をお願いいたします。

大久保委員　質問なんですけど、９ページの調査のところで、「５年生までに受けた授業で、コンピューターなどのＩＣＴ機器をどの程度使用しましたか」が 69.6％ということですが、子どもたちは、どの程度活用したかという設問に対して、どんな答え方をしているのですか。

倉本教育長　熊野市が他市町と比べて割合が高いのは、熊野市が、他市町に先駆けてプログラミング教育に取り組むために、コンピューターのタブレット等を先行で取り入れた結果であるともいえます。

伴学校教育課長　これは、使用頻度について聞いております。パーセンテージは、「ほぼ毎日」と「週１回以上」を合わせた数字となっております。
実は、中学校も全校（コンピューターを）揃えてもらっているのですが、中学校は教科担任制をとっており、小学校は学級担任が１人でやっておりますので、その先生が使うと、子どもの使用頻度もすごく高くなるということがありますが、中学校は教科間でバラつきがあるところもございまして、数字が低くなっているのかなと思います。

大久保委員　はい、よくわかりました。

河上市長　８ページで、小中とも国語の「書くこと」「読むこと」に課題がみられるとありますが、これは各教科に共通する話だと思うんですけど、以前から読書の量が少ないとか課題があって、いわばこれは「書くこと」「読むこと」という課題であって、これに対して何か戦略的な話はあるんですか。

伴学校教育課長　はい。特に読解力につきましては、これまでの「読解力」と国からの指針も変わってきております。以前は、１つの物語を「読み込んでいく」ような読解力が求められていました。具体的な話でいうと以前は、作者がどういう思いでこの本を書いていたのか、そういったことを問われることが多かったんですが、最近は、色んなものを読んだうえで、その比較をしたり、あるいは情景を整理して読んだり、というような読解力に変わってきております。
ですので、物語を読むこともそうなんですけど、とにかく沢山の本に

出会わせることということが求められており、国語の教科書等にも、並行読書という言葉で言われているんですが、沢山の本が紹介される形にはなってきております。

倉本教育長　今まで読書活動の推進ということで、各学校、朝の 10 分間読書であったり、図書室を沢山使うように取り組んだりということを進めてまいったんですが、なかなか国語の読解力、書くこと読むことの力がついてこない、やはり読んでその内容を人に伝えるとか、その内容を要約する力とか、そういった部分まで支援していかないと、書くこと読むことの力がついてこないと思っています。ですから、今までどおり朝の読書、本に触れる機会を増やしていく、そしてもう一歩進んだ取組に繋げていくことを計画しています。

河上市長　先生方によって教え方は、色々工夫されて異なる部分もあると思うんですけども、基本的には私は、読む量と読んだものを咀嚼して表現することを必ず頻度を多くやらないと、インプットとアウトプットは表裏一体なんで、そこは定量的な目安を設けて、時間と回数どれくらいかというのは、教育委員会の判断だと思いますけど、ある程度の目安は示さないと、いいのかどうかはわかりませんが、そういうところをきちんと示してやっているところと、差がでているのかという実験的なことも含めて、色々と挑戦してみるべきだとは思います。要するに、やり方がいいかどうかの検証も行うべきじゃないかなと思います。

さっき、ＩＣＴについては、中学校は科目ごとに先生が変わるのでという話でしたが、せっかく機材を入れて利用頻度が全国平均より少ないというのは、どうにか対応すべき問題じゃないかなと思います。それと、高いコストで入れていて、これこそ、私はＩＣＴについては習うより慣れろだと思っているので、都会の子どもたちに負けない能力を身に着けるのは、とにかくＩＣＴに慣れさせることだと思ってますので、是非、この点もですね一定の利用時間と頻度の目安は設けて、それをチェックするなりして、ＩＣＴ活用能力の向上に取り組んでいただければと思います。

伴学校教育課長　学力向上の部分については、学校教育課の方で今年度中に、国語の部分で具体的な教材を示して、その中での授業展開ということで、学力向上の推進研修会をリモートなんですけども、行うことを考えています。

先ほど市長からもありましたように、検証を進めてまいりたいと考えております。

私どもも、それが効果があるのかどうかということも含めて、今回先生方には完全に希望参加にさせてもらっています。参加しないとい

う学校もあるということも踏まえて、結果の検証も含めて今年度中にある程度の目安をもって、来年度の具体の取組を進めてまいりたいと考えております。
ＩＣＴについても同様で、特に中学校の使用頻度を上げるために、今回挙げさせてもらったグローカル教育に関しては、中学校を中心にＩＣＴの活用を目指して働きかけを進めていこうと考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

倉本教育長　各学校の授業を観て回っておりますと、年齢に関係なく、再任用の教員であっても積極的に使っている職員もおります。また、若い職員も積極的に使っております。しかし、どうしても苦手意識がある職員もおりますが、今後は、使わざるを得ないような状況をですね仕掛けていかなければならないし、学校もそのような雰囲気になりつつありますので、効果的な研修会をうっていきたいと考えております。

河上市長　今の教育長のお話で、私は、その子どもにとってトータルでどれだけ使っているのかが問題で、各先生個々がどれくらい使えるのかというのは別問題にしておく方がいいと思うんです。あまり得意じゃない人に無理やり押し込んでも、おそらく教える内容はそれほど高い内容にならないと思うので、トータルで子どもさん一人一人がどれくらいＩＣＴ教育の時間、頻度を確保できたか、それによってどれくらいレベルが上がったかということが大切なんで、そのへんは教育委員会にお任せしますが、是非、読む力と書く力とＩＣＴの力をしっかりやっていただきたいと思います。

大久保委員　学力というのは、つけようと思ってすぐつくようなもんじゃないと思うんです。
長い基礎的な力もあり、それが徐々に積みあがっていきその子どもの学力が身につくという。読む力にしても、小さいときから本を読むことについて興味を持って積み重ねていく。書くこともやっぱりある程度、何かを書くっていうんですか、今日学校であったこと、楽しかったことや辛かったこと、それを文章化していくという、それを月１回や２回の作文の時間じゃなくて、できれば毎日ぐらいやって、長い文を書くんじゃなくて、短い文でいいからそれを毎日繰り返して、書くことに対する抵抗を無くしていく、そういう積み重ねが必要じゃないかと思います。
子どもの力をつけるには、学校の先生はもちろん大事だと思うんですけど、家庭の力もすごく大きいと思う。家庭がどれくらい理解してくれているかによって、子どもの力というのはずいぶん違ってくると思う。これまで色んな子どもを見てきた中で、親がどれだけ熱心かで子どもの力が随分違ってくると感じます。

学校、家庭、それから子どもがどれだけやる気を出すようになるかという、そういうことが大事だと思うんで、そういう連携も是非考えていって欲しいと思います。
「読む力」「書く力」ってありますけど、子ども達は言葉を知らないんですね。この間も、５年生の子どもが問題を解いている時に「基準て何」という会話を子ども同士が話をしていた。そういった類の問題をやる以前の問題もある。読書をしっかりやって、言葉を覚えていくというも大事じゃないかと思う。

河上市長　今の読書の話もそうなんですけど、さっき言ったことと同じですが、読書の時間と「読む力」の相関関係をチェックすべきじゃないかなと、各学校で毎朝５分「必ず」やっているところと、週３日しかやっていないところの違いが平均レベルを見れば必ず出てくると思う。それを先生方が認識すれば、客観的な資料としてわかってくるので、そういった工夫も要るんじゃないですかね。そのへんはもうやっているのかもしれないけど。

勝田総務課長補佐　その他何かございませんでしょうか。無いようですので、次の事項に移らせていただいてもよろしいでしょうか。
それでは、２番の「これからの生涯学習をどう進めていくか」についてご説明させていただきます。

弓場社会教育課長　社会教育課の弓場です。よろしくお願いいたします。
続いて、「これからの生涯学習をどう進めていくか」について、ご説明をさせていただきます。本冊の２ページから５ページ、資料２になります。
生涯学習事業の現状といたしましては、新型コロナウイルス感染症の拡大等により、事業を中止もしくは延期せざるを得ない状況でございました。
また、講座参加者の固定化や交通事情等によるためなのか山間地域の方の参加者が少ないなど、新たな参加者の確保という課題がございます。
このような状況の中、今後の生涯学習については、新型コロナウイルス感染症の感染予防と学習の活動の継続を両立させる手法としてＩＣＴ（情報通信技術）の活用を進めてまいります。具体的には、おもに市民大学講座などの聴講型の講座で活用します。例えば、文化交流センターの多目的ルームで講座を開催し、その様子をインターネットを経由して市民会館の会議室で映像配信します。これにより、これまで会場の大きさにより制限していた参加人数を増やすことができます。さらにこの映像をライブ配信すれば、これまで交通事情等により会場に行くことをためらっていた方が自宅で聴講することができ

るので、各種講座への参加のきっかけとなることが期待できます。
また、山間地域の新たな参加者の確保に向けて「新たな取組」として、山間地域の公民館や小中学校を会場として、その地域の文化財や歴史に関する講話等を開催し、交通手段等の理由で、市の生涯学習講座に参加した経験のない方の参加を進めたいと考えています。なお、開催に際しましては、自治会などの地元組織の協力を得たいと考えております。この講話等への参加をきっかけに生涯学習事業への新規参加者になっていただけないかと期待しております。
それでは事業の説明をさせていただきます。
本冊の２ページ、資料２の２ページからになります。
この項目では生涯学習事業の取組事業を、まず予算科目上の分類で社会教育総務と図書館に分けさせていただいています。その上で、参加対象別に「こども」と「一般」と「高齢者」に分け、さらに講座の内容別に「実践」と「体験」と「聴講」に、分類することが難しいものを「実践・体験・聴講」とに分類して取組事業を上げています。本冊で「事業内と成果」と「現状での課題」と「今後の取組の方向性」を、資料では各事業の状況について上げています。
まず、本冊２ページには、生涯学習事業・社会教育総務の参加対象が「子ども」で内容が「体験」に該当する「いっしょに花づくり教室」と「チャレンジ科学教室」と「子ども囲碁教室」を上げさせていただいております。どの講座も従来からの人気の講座として定着しています。
一昨年から新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止や延期とした回がございました。体験型の講座の場合、講師と対面して直接指導を受けることが効果的でありますので、中止、延期をせざるを得ないことがございました。今後の取組の方向性としましては、このコロナ禍においても、オンラインを活用して開催できる方法を検討してまいります。また、一定規模の会場が必要となる教室については、B&G 海洋センターや市内の学校等も会場として考えてまいります。
「囲碁教室」における指導者の後継者については、「大人の囲碁教室」を継続していくことにより、受講している保護者を講師として育成していきたいと考えております。
来年度に向けて「新たな取組」として、自分が住んでいる熊野市の歴史や文化財を含めたすばらしさを認識してもらい、熊野市について語ることができる子どもの育成を期して、本年度改訂される「こども文化財読本」を活用し、市内の文化財を巡り、熊野市の文化や歴史に触れる仮称ですが「巡ろう熊野市の文化財」事業を小学生を対象に実施したいと考えております。

本冊の３ページ、資料２の３ページ・４ページをお願いします。
次に参加対象が「一般」で内容が「実践」に該当する「お父さん・お母さんのための囲碁教室」と「書道教室」と「初歩のイタリア語会話教室」と「ＳＮＳ利用促進教室」を上げさせていただいております。囲碁教室や書道教室は個人の重要な趣味として続けて受講される方が多くおられ、参加者が固定化される傾向が見られます。どの講座も通年開催であるため、コロナ禍における影響が大きく、講座の中止や定員数を削減するなどで対応しています。また、どの講座についても、現講師への依存度が高く、今後、継続していくためには、講師の育成等が必要となります。今後の取組の方向性としましては、専門性の高い講座であり、一定の需要が見込まれることから、今後も継続して行っていきたいと考えております。また、ニーズに基づいた生涯学習のすそ野を広げるという点で、今年度から開始したＳＮＳ利用促進講座等、新たな受講者を獲得してまいります。講師の後継者問題については、受講者の講師育成や「まちの人材活用事業」に登録している方への講師依頼などを念頭に置いて、幅広い人材の活用を検討してまいります。
来年度に向けて「新たな取組」として、はじめにご説明させていただきました山間地域の公民館や小中学校を会場として、当該地域の文化財や歴史に関する講話等を開催し、市の生涯学習講座に参加した経験のない方の参加を進めたいと考えています。
本冊の４ページ、資料２の４ページをお願いします。
次に参加対象が「一般」の内容が「体験」に該当する「家庭菜園教室」と「フラワーデザイン教室」を上げさせていただいております。フラワーデザイン教室については、参加者の固定化の傾向がございます。フラワーデザイン教室につきましては入門編と中級編に分けて開催するなど、講座の再構築について検討してまいりたいと考えております。
資料２の５ページをご覧ください。
次に参加対象が「一般」で講座内容が「聴講」に該当する事業として「熊野市民大学」を上げさせていただいております。熊野に関連する歴史、文化や芸術等について、専門的な講師を招いて講演を行うものであります。コロナ禍において、参加人数の制限や講座の中止など、受講機会が減少しています。受講機会を増やすため、会場のサテライト化やリモート配信を試験的に導入することとしています。
次に参加対象が「一般」で講座内容が「実践・体験・聴講」に該当する事業として「学びの広場熊野」を上げさせていただいております。受講者は年度当初に登録し、年間を通して様々な講座メニューを受

講されますが、固定化されたメンバーとなり、興味のある講座のみ出席する受講者も見られます。今後の開催方法については、上半期と下半期の入れ替え制を、講座内容については、日帰り社会見学やＳＮＳ利用促進教室等を組み入れるなど、柔軟な実施方法により再構築したいと考えております。
次に参加対象が「高齢者」の「実践・体験・聴講」に該当する事業として「紀和寿学園」を上げさせていただいております。紀和町の高齢者を対象として、年間を通し、健康講話やレクリエーション、運動会など様々な学習機会を提供しています。登録者数については、減少してきておりますが、今後も、受講者の満足度を優先し、当該講座の実施を継続していくことといたしたいと考えております。
本冊の５ページ、資料２の６ページをお願いします。
次に、生涯学習事業・図書館の参加対象が「子ども」で内容が「体験」に該当する事業として「キッズ司書育成事業」を上げさせていいただいております。令和２年度から始めた事業ですが、昨年度は５名の小学生がキッズ司書として受講を終了しました。今年度は２つに分けて 10 名の小学生がキッズ司書として受講しています。今後は、児童が自宅でできるカリキュラムの一つとして選書リストやポップの作成について進めていきたいと考えています。また、ＢＯＯＫトーク等についてのＷＥＢ化の検討も進めていきたいと考えます。
次に、内容が「聴講」に該当する事業として「おはなしなぁに」、「幼児のおはなし会」、「おはなしわくわく」を上げさせていいただいております。０歳児から小学校低学年を対象とし、年齢に応じた読み聞かせを行っています。参加者が年々減少しています。開催時間の変更やＡＬＴによる英語翻訳の読み聞かせやキッズ司書によるＹｏｕＴｕｂｅ活用などＤＸ化も併せて他事業とのコラボレーションを試みたいと考えております。
資料２の７ページをお願いします。
次に、参加対象が「一般」で内容が「実践」に該当する事業として「年賀状製本教室」と「手作り絵本教室」を上げさせていいただいております。参加者にとって満足度の高い講座となっていますが、コロナ禍では、時期を逸した場合、開催が難しくなることから、継続を基本としながら新たな製本教室を開催してまいります。
次に、内容が「聴講」に該当する事業として「文学鑑賞講座」を上げさせていいただいております。コロナ禍で中止の際はレジュメを渡すなどで対応していますが、講師が高齢なことから毎月の開催がやや困難になってきています。今後は、講座の回数を減らし、講座の開催方法等についても検討してまいります。

説明の方は以上でございます。

勝田総務課長補佐　ご説明しました、「これからの生涯学習をどう進めていくか」について、ご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

河上市長　ＳＮＳの利用促進教室は、ファーストステップを飛ばしているような気がするんですけど。そもそも、ＳＮＳという言葉が普段スマホとか使ってない人にとっては、何のことかわかってないんじゃないかなと。だから、もう少し入口の、スマホとかタブレットを使えるＡＢＣが要るんじゃないかなと思います。その次のステップでＳＮＳというふうになるんじゃないかと。

商工の係でもやってるんですが、全然数が少なくて、こちらでも是非。別にＳＮＳをやるなと言っているんじゃなくて、ＳＮＳって聞くと、セカンドステップであって、ファーストステップじゃないんで、間口を「スマホ初歩」とか、検索できない人もいると思うんですよ。そのレベルからいるんじゃないかと思うんですけど。講座の名前を工夫してもらった方がいいかもしれない。

倉本教育長　市長がおっしゃったように、前回のＳＮＳの教室では、非常に好評だったのが「アラームの使い方がわからない」とか、先程言われたことを求めている受講者が多いということで、そちらの方で随分盛り上がったと聞いております。今後は、そちらの方へ寄せていく必要があると考えています。

大久保委員　パソコンにしても、スマホにしても、使ってなんぼというか１回や２回聞いただけでは、ずっと使っていなかったらすぐ忘れてしまう。毎日、何らか使う手だてを考えないと。例えばＬＩＮＥであれば、しばらく慣れるまで毎日ＬＩＮＥを使う相手を決めておくとか、「とにかく使う」っていうことは、どんなことでも慣れていくことに必要なことなので、そういう手だても大事かなと思います。

河上市長　生涯学習事業をこの文化交流センターと市民会館を中心としてやるんではなくて、地域で開催するというのは非常にいいことだと思います。間口を広げるという意味でも。

それと、今のＳＮＳとか名前や内容にも関わる話で、全体の講座の話になるかもしれないですけど、そもそも生涯学習の講座に市民としてどういった希望があるのかという調査を今までやってないと思います。少ないサンプルでもいいんで、ここに来ている人に聞くんではなくて、ここに来ている人は意識を持って来てるはずだから、それ以外の人たちに何かの機会にアンケートをして、潜在的にこういうことならば行ってもいいなという、そういうものをもし掘り起こせるんであれば、掘り起こしていただいて、講座のテーマ、やり方なりを考えることも少し今後検討してもらえばいいんじゃないかなと思い

ます。

高見委員　　現状の課題のところで、メンバーの固定化というのが目につくんですけど、その固定化っていうのは、何年も続けて同じ人がっていうことですか。

弓場社会教育課長　　例として挙げると、今年15名募集して先着順としてやった講座があるんですけど、7名の方が受けられなかったんですけども、その中で複数年みえられている方のうち受講経験が多い方で5年という方がいらっしゃいました。

今年は、たまたまかもしれませんが、新人の方が7名入っているんですけども、漏れた7名の中には6名が複数年受講された方でした。

高見委員　　ある程度の年数を経験した人には終了証書みたいなものを渡すとかして、新しい人を取り入れたいからということで、お断りといっては失礼かもしれないですが、そういった形で新しい人との入れ替えを考えて欲しいなとは思います。

倉本教育長　　おっしゃっている意味はよくわかりますし、お話していただいたことはもっともでございまして、1つの講座に連続して何年か参加いただいている人も居ます。それはそれで意義があると思うんですが、私共は、第一目的としていろんな方に、今まで経験したことの無い方に経験していただきたい。そして今後の生涯を豊かに過ごしていただきたいという思いがありますので、次年度は、そういったところをうまく、分けるとか、言っていただたようにある程度の回数を参加された方は受講完了であるとか、その後は、自主的に学ぶ場所があると思います、色々な教室を色々な場所でやられていると思いますので、または、そこを卒業された方がサークルを作っていただくとかですね、実際、歌謡サークルなんかは、生涯学習講座を卒業された方々がそういったサークルを作って、長い間活動されておりますので、そういった方向にシフトしていきたいと思います。

河上市長　　放送大学なんかで、自由に教養講座を観られるわけですよね。歴史とか、自然科学とか、それに行く途中のステップはここでやるにしても、あとはそちらで観てくださいというやり方もあると思いますし、フラワーデザインなんかも、レベルが高くなったら商工の担当が支援してお金を稼いでいただくという話もあるんで、教育委員会だけで考えるんではなくて、広がりをステップや高さを含めて考えていただければと思います。

倉本教育長　　今年度、山間部などで出前講座をやらせてほしいというのはですね、パソコンも使えない、今までこういった講座に参加したこともない、そういった方に受講していただくために、出かけていく、場合によっては交通手段もこちらが確保するところまで踏み込んでいきた

いなと考えています。
そのためには、地区の区長さんとか、自治会のご協力は必要ですので、まずそれをお願いしたあと、講座を組んでいくということをやっていきたい。

高見委員　山間部の人間としては、来ていただくというのは大変ありがたいことなので、是非とも実現していただきたいなと思います。

大久保委員　５ページの図書館の「おはなしなあに」のところですが、参加者が年々減少しているとありますが、今のところは毎回何名くらいが参加してくれているんですか。

弓場社会教育課長　資料６ページ、７ページになりますけども、６ページの中段「おはなしなあに」のところですけども、今年度実施回数９回で延べ人数 73 名ということで、８名程に参加いただいています。それから、「幼児のおはなし」会」も５回開催で 24 名、各回平均で５名の方に参加いただいています。７ページ上段の「おはなしわくわく」実施回数３回で延べ人数７名となっています。

河上市長　傾向を聞いていると思うが。この数字はわかっている。減ってきているといういのは、これまでの人数はどうで、今はどれくらいになっているのかという数字は無いのですか。

弓場社会教育課長　資料の１ページをご覧ください。「おはなしなあに」令和元年度、２年度の数字となっております。「おはなしなあに」が 22 回開催、延べ 393 人、２年度につきましては 18 回開催して 200 人の参加となっております。

河上市長　「おはなしなあに」はちょっと減ってますね。

弓場社会教育課長　「おはなしなあに」でいきますと、元年度が平均 18 名、２年度が 11 名、３年度が８名というふうに減少しております。

河上市長　「幼児のおはなし会」は減ってない。「おはなしわくわく」の方は減っている。

弓場社会教育課長　「幼児のおはなし会」の方が、元年度が６名、２年度が８名、３年度が５名というかたちになっております。それから、「おはなしわくわく」の方ですが、元年度が 10 名、２年度が５名、３年度が２名ということになっております。

大久保委員　これは子どもの数なんですね。

弓場社会教育課長　付き添いの方も入れてです。

大久保委員　ということは、子どもの数は、先程の数字の半分くらいということですか。

倉本教育長　コロナウイルス感染症の影響も受けておりまして、たまに参加を観に行くんですが、昨年、今年は少ない状況があります。またこの数字は回復してくるだろうとは思いますが、幼児の数も少なくなって

きておりますので、劇的に増やすには、何か大きな仕掛けをしないといけないと思っています。

大久保委員　あと、これはボランティアの方々がやってくれていると思うんですけど、１回のおはなし会で何人くらいに出てもらっているんですか。

倉本教育長　３人とか４人でやっていただいていると思います。全て観たわけではありませんが。

大久保委員　私がちょっと思うのは、５、６人の子どもに３人、４人のボランティアがついているわけですよね。小さいお子さんへのおはなし会は金山の子育てセンターでもやってるんですよね、だから、図書館でもあり、子育てセンターでも聞けると、しかもそれを聞いているのは子どものうちのほんの一部であると、何かもったいないなぁと感じる。ボランティアの方には怒られるかもしれないが。

それよりも、もっと子どもの多いところ、ちょっとボランティアの方に頑張ってもらって、小学校とか保育所とか、沢山の人に本の良さをわかってもらえるように、いい本をそこで読んでもらえるように、ボランティアの方もそういうところでおはなし会ができるように練習をしてもらうと、随分と長い間やってもらっている方もいらっしゃるんで。

今はコロナで学校等に行けなかったと思うんですけど、治まってきた段階で、できたら１人か２人で学校に行って多くの子どもたちに本の良さを知ってもらうと。

図書館の「おはなし会」とか「読み聞かせ」は司書の方ができないのかなと。赤ちゃんの本なんか読むのに１分もかからないと思うんです。

図書館のことは月に２回くらいのことなので、司書にお願いして頑張ってもらって、将来的にはボランティアの方が学校に行って、できるだけ沢山の子どもたちに本の良さを紹介してもらうというような体制ができたらいいのになぁと。希望的観測ですけど。

河上市長　私もそうだと思います。さっきも言いましたけど、生涯学習講座のようにステップを踏めるものなら、すべて教育委員会だけでやれるもんじゃない。今のお話でも横の広がりですよね。他のところと連携して活動を広げるということも考えるべきで、せっかく来ていただいてセミプロ並みの能力がある方だと思うので、保育所でお話していただければ皆が聞き入るんじゃないかというイメージが思い浮かんだんですけど、そうした他の機関との連携も含めて、なるべく多くの参加者が得られるような工夫を考えてもらいたい。

大久保委員　ボランティアの方々も赤ちゃんのおはなし会ばかりやっていたの

では、力がついてこないと思うんです。小学校に行ったら、５分、10分かかる本を読まなければならないから、それなりに練習もしなければならないし、本を選ぶにも労力が要ると思うんですけど、そういうのを今のうちに、力をつけていって欲しいなぁという感じがします。

弓場社会教育課長　ボランティアの方々にはキッズ司書の養成講座などの講師であったり、おはなし会だけではなく色々な事業に携わっていただいております。

形や主旨は違ってくるのかもしれませんが、小学校や保育所に対しては、募集をかけて市のマイクロバスで、こちら図書館に来ていただいて、図書館活動を観ていただく事業も行っております。

倉本教育長　学校や保育所、また子育てセンターとの連携はですね、同じものを両方でやらなくていいと思うんで、片方を充実させていくというように、先程言っていただいたことに力を注いでいくところも含めて検討させていただきたいと思います。

河上市長　くどいようなんですが、そういう本を読んでもらう機会が増えることが、ひょっとしたら読書の習慣のはじまりというか、基礎にもなるのかもしれないので、是非、多くの子どもさんに本を読み聞かせる機会を作ってあげて欲しいと思います。

伴学校教育課長　学校への図書ボランティアの派遣は、ここ１、２年はコロナの関係で実現はしていないんですが、私も３年前に金山小学校にいたんですが、ボランティアの方々を定期的にお呼びしておりました。

教育委員会として実態の把握をしておりませんので、そのあたりの実態把握を行いたいと思います。個別の学校でボランティアの方々を呼んでいることはあると思いますので。

勝田総務課長補佐　その他、ご質問等ございませんか。

無いようですので、次の事項に移ります。

最後に（３）その他　でございますが、各委員の皆様から 何かございませんでしょうか

河上市長　ちょっと厳しいことを一つ。ここで話した意見についてのフィードバックは、反映の度合いっていうのは、委員の皆さんにしているのか。今まであまりされてないと思うんですけど。口頭での報告はあったかもしれませんが、フィードバックをちゃんとしてもらった方がいいと思う。

100％できる話ばかりではないと思うので、こういうことをやってきましたとか、この回数を増やしましたとか、それでも十分フィードバックになると思うので。是非それは考えていただきたい。

大久保委員　ここととあまり関係ないかもしれませんが、小さい子どもの話で、熊

野市は市立の幼稚園がありませんよね。こども園というのは、どういう位置づけなんですか。内容的には、保育所的なのか、幼稚園的なのか。

河上市長　単純な説明をすると、足して２で割ったようなものです。前からその議論はありまして、保育現場に教育的な要素を取り入れてはどうかという意見はあるんですが、年齢で０歳や１歳は難しい、ただ年齢が上がってくると、保育現場でも教育的要素を取り入れていると必ず反論がくるんです。そういう意味では、以前から実質的にはそれほど幼稚園と保育所の区別は無くなってきてるんじゃないかなと思っています。

大久保委員　ちょっと不思議に思うのは、内容的にはそういうふうになってきているんだと思いますけど、職員を募集するときに全員、保育士の資格を持った人ですよね。幼稚園の資格を持った人というのは熊野市ではほとんど入ってないと思います。御浜町なんかは、幼稚園の資格を持った人というのも条件に入っています。熊野市では無いので、こども園というのがあって、ある程度幼稚園的な内容を指導していくのであれば、幼稚園の免許を持った人も入れていって、内容も取り入れていけばいいのかなと感じましたので。

河上市長　今は減ってきているとは思いますが、以前は、保育所の中に幼稚園教諭の資格を持った人を、木本幼稚園に配置していましたので、ただ、その先生方が言うのが、さっき私が言ったことの繰り返しになりますが、保育所でも幼稚園的なことはちゃんとやってますということなんで、あまり、今となっては幼稚園教諭の資格を持った人に捉われる必要も無いような気がしますが、実態の方はご指摘の点なんで、さっきフィードバックをすべきだと言いましたから、一回調べたうえでまたお知らせさせていただきます。

倉本教育長　認定こども園につきましては、幼稚園教諭の資格を持った人を配置するというのは好ましいことだと思います。ただ、急にそれに切り替えるということが出来なかったから、しばらくはそういう状況を認めるというがあったと思うんですが、今はというのはわかりませんので、きちんと調べてお返しします。

河上市長　参考までに、こども園は木本だけですよね。

倉本教育長　認定こども園は、木本だけです。

大久保委員　東員町だったかで、教育委員会が保育所まで入り込んで、その内容も入れていって教育委員会が管理しているという、すごいとこもあるもんだなと思いました。英語なんかも取り入れていましたし。

河上市長　今の保育現場の現状からすると、保育士さんにそういったことを求めるのは、ほぼ不可能だと思います。もしそれをやるんであれば、

さっきの読み聞かせのように保育所に出向いていただく、センターに来てもらうのではなくて、保育の現場でやってもらうというのと似たような取組で、外から人を派遣すれば調整はできるかもしれません。ちょっと宿題でもらっておきます。
学校の先生のＯＢで協力してくれる人がいれば、あと、保育現場がそれを嫌がらなければ可能性はあると思いますけど。
とりあえずは、読み聞かせを保育所でできるように。

大久保委員　保育所の先生も、やっている方もいると思います。帰る前に子どもを集めて読み聞かせをやって帰すというクラスもあると思います。

河上市長　良いか悪いかわかりませんが、そういう小さなうちから、本に親しむ機会を沢山作るべきだと思いますので。

大久保委員　読み聞かせをするのに、小学校に行った時に、はじめはザワザワして落ち着かない子どもたちも、何回か行っているうちに、しーんと話が聞けるようになってくる、そうなると授業の時も話を聞けるようになってきて、結局は学力の向上に役立つんじゃないかと思う。いわゆる聞く態度っていうものが育成されていくんじゃないかという気がします。

河上市長　それは大切で、５分間なら５分間、きちんと人の話を聞いて理解できる能力があれば、ファーストステップとしては十分じゃないかなと思いますんで、最後にいい提案をいただきましたので、教育委員会でもまた考えてもらいます。

勝田総務課長補佐　委員の皆様、市長から、いろいろなご意見をいただきました。
これまでの成果・反省・課題もふまえて、これからの事業に反映させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。
それでは、これをもちまして、令和３年度　第１回熊野市総合教育会議を閉会いたします。
本日はありがとうございました。